

## 第 2 回研究会

日時：2002 年 11 月 3 日

会場：東北大学理学研究科

第 2 回研究会は、東北地理学会の 2002 年度第 2 回研究集会もかねて、「外邦図の整備と関係資料の探索」をテーマに開催された。西村嘉助先生はじめ、計約 40 名の参加があった。

## 3-1 British Library 所蔵の外邦図について

長谷川孝治（神戸大）

### I はじめに

1990年代以降、欧米においては地図と戦争、軍事の関係についての論議が高まりつつある。国際地図史学会（ICHC）でも、毎回 Maps and War のセッションが設定され、またイギリス戦時部が所蔵する1881-1905年の2,000葉の地図を目録化した、A. C. Jewett: *Maps and Empire*, 1992 や、インドの地図化と大英帝国の関係を論じた、M. H. Edney: *Mapping an Empire*, 1992 なども刊行されている。こうしたグローバルな潮流の中で、外邦図を再吟味することを意図したい。

### II British Library 所蔵の外邦図

イギリスでは、2000年1月から4ヵ年で、国防省（MOD）及び公文書館（PRO）が所蔵する1881-1968年の約20万葉の地図を歴史的資料として英国図書館（BL）へ移管するプロジェクトが進行中である。この中には、参謀本部地理局（GSGS）所蔵図をはじめ、中東などの地域紛争時の応急図、米国国防総省軍事測量局との共同作成図などが含まれており、外邦図はGSGS内の戦時部で所蔵されていた。BLの地図部（ML）では、外邦図をCD-Rom版カタログに収録（シリーズ名のみで、個別図の検索は不可）しているほか、大型索引図も作成しており、それらをCD-Romないしハードコピーで入手した。

索引図化されている主要なシリーズは、①陸地測量部作成(1941-44年)の1:100,000図（満州、シベリア、樺太等）、②参謀本部・陸地測量部作成の1:100,000図（満州、モンゴル等）、③関東軍指令部作成(1941-42年)の1:100,000兵要地誌図（西伯利、極東、東「ソ」、満州、蒙古の各十万分一図に軍事情報を加刷、計244葉）など、中縮尺図がほとんどであ

る。したがって現段階では、日本で所蔵していない外邦図を発見する可能性は少なく、むしろMODに依然留置されている外邦図の探索や、それらのイギリスへの接收等の来歴を解明することに意味があると思われる。

### III 外邦図原図の探索

外邦図は、①台湾、南樺太、朝鮮半島、南洋諸島あるいは満州などのように日本が植民地化した地域を、自らの測量により地図化、②シベリア、蒙古、中国本土などのフロンティア地域を、空中写真や秘密測量などによって地図化、③東南アジアからインド、アメリカ合衆国、オーストラリアなどの外縁部を、既製図を利用して改訂複製、という3類型が設定されうる。

今回のBLでの調査では、③の典型的な事例であるインド関係外邦図を、原図と比較することに着手した。すなわち東洋・インド史料部（OIIOC）が所蔵するインド測量局作成の1インチ図(1:63,360)と1/4インチ図(1:253,440)の原図をCD-Rom版で入手し、それぞれと外邦図の「五万分一印度図」、「二十五万分一印度」と対比し、差異の有無を検証した。その結果、五万分一図では、原図を「五万分一二伸寫シ五色二複製セルモノナリ」と備考で述べるように、縮尺をメートル法で拡大し、7色を5色に減じる操作を行なったことが確認できたが、それ以上に整飾部の凡例が大幅に拡充され、読図に益する情報が付加されていることが注目された。内容的には、橋・細流・堤防など水部、土地利用、地名ランクなどであり、地図そのものの日本語への改訂が困難なため、凡例の説明で補ったことが明瞭である。「二十五万分一印度」でも同様な操作が行われたことが認められる。

#### IV おわりに

BL の地図部及び東洋・インド史料部での予備調査は以上のものであったが、今後はアメリカ合衆国での所蔵状況と比較すると同時に、インド以外のマレー、香港など旧イギリス植民地の原図と外邦図の対比を継続し、「帝国の可視化」としての外邦図を追究していきたい。

### 3-2 在アメリカ外邦図の所蔵状況－議会図書館・AGS Golda Meir 図書館・ハワイ大学ハミルトン図書館の調査から－ 今里悟之（大阪教育大）・久武哲也（甲南大）

#### 1 はじめに

旧日本軍が軍事用に作製した日本国外の地図である「外邦図」は、戦後、国内外に散逸し、その所在や作製の実態そのものに関して、不明な部分が多い。その所在が確認されているのは、現在、国内では東北大学・お茶の水女子大学・東京大学・立教大学・国立国会図書館・京都大学・広島大学など 20 以上の諸機関、海外ではアメリカ議会図書館 (LC)・アメリカ地理学協会 (AGS)・クラーク大学・大英図書館 (BL) などである。

外邦図が作製された地域は、千島・樺太・シベリア・蒙古・満州・中国本土 (支那)・朝鮮・台湾・東

南アジア・インド・南洋諸島など、アジア・太平洋全域に及ぶ。その種類としては、周知の地形図・水路図 (海図)・航空図のほか、兵要地誌図 (作戦図)・陸海編合図・空中写真要図・市街図などがある。

兵要地誌図とは、道路の通行、海岸への着船、航空機の離着陸、水の供給、地誌一般、集落の人口など、軍事作戦に必須の情報が詳細に記入された地図で、地形図 (時には現地国あるいは宗主国が作製したもの) の上に朱・青・緑などで文字・記号・線・面などが上刷されている。また空中写真要図とは、例えば河川とその周辺部のみを空中写真撮影し、それをスケッチ風に平面図化した応急作戦図である。

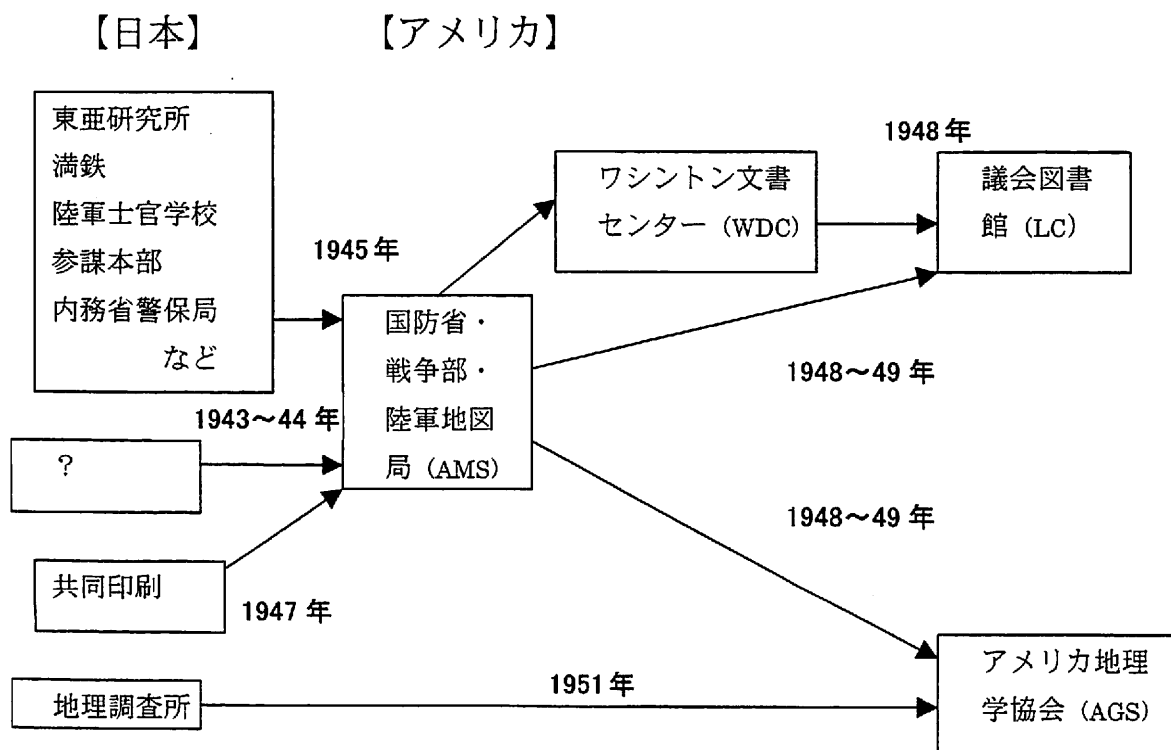


図1 外邦図のアメリカへの流出経路(図幅調査および聞き取りによる)

表1 今回確認した兵要地誌図(LC, AGS 所蔵分)

所蔵	地域	縮尺	名称	製版・発行年	作製者など	特徴	数	索引図
AGS	旧ソ連	極東	10万	作戦用地誌図	1905~13	参謀本部	応急版, 4色刷, 一部露図元図	約30
LC		東ソ	2万5千	地誌図	1938?~	参謀本部	製作2枚	0
AGS		西伯利	2万5千	応急版作戦図	1938~41	関東軍司令部		約30
AGS		極東	2万5千	兵要地誌図	1941	参謀本部	3色刷	2
AGS		西伯利	10万	地誌図	1942	関東軍司令部	一部露図元図, 4色刷	51
AGS		東ソ	10万	地誌図	1943	参謀本部	4色刷	?
AGS		沿海州	不明	海岸地誌図?	1943	参謀本部	山影スケッチ・漁場・里程など	8
LC	ソ満国境	満州・西伯利・蒙古	20万	兵要地誌図	1932~	関東軍司令部	仮製138枚・本製64枚	66
LC		満州・西伯利	10万	地誌図	1938~	参謀本部	製作227枚	217
AGS		満州及西伯利	10万	地誌図	1938~39	参謀本部	3色刷	5
LC		綏遠省	5万	兵要地誌図	1938?~	参謀本部	製作20枚	0
LC		内蒙古	10万	地誌図	1938?~	参謀本部	製作67枚	0
LC	満州	北満州	50万	兵要地誌図	1937	参謀本部	給水地点図示	?
AGS		満州	10万	作戦用地誌図	1941	参謀本部	一部露図元図, 4色刷	17
AGS		満州	10万	地誌図	1942	関東軍司令部	一部露図元図, 4色刷	35
AGS	支那	支那?	10万	作戦用応急版	1935~39	関東軍測量隊	空中写真測量	?
LC		支那?	50万	兵要地誌図	1838~1947	参謀本部	詳細不明	?
LC	北支那	北支那	50万	給水地分布図	1938	陸軍参謀本部		?
LC		山東省	10万	地誌図	1937	参謀本部		?
LC		山東省	10万	兵要地誌図	1940	陸地測量部		?
LC		山東地方	50万	兵要地誌図	1941	陸地測量部		2
LC	中支那	四川省	50万	兵要地誌図	1941	支那派遣軍		4
AGS	南支那	南支那	10万	作戦用応急版	1935~39	関東軍測量隊	空中写真測量	?
LC		福建省	50万	兵要地誌図	1940	参謀本部		2
LC		sen-keyo chiheo	50万	兵要地誌図	1942	陸地測量部		9
LC		雲南省	50万	兵要地誌図	1942	陸地測量部		4
AGS	インドネシア		10万	兵要地誌資料図	1943	参謀本部	蘭図元図, 5色刷	5
AGS	南洋諸島	カララインほか	1万5千ほか	兵要地誌図	1917~24	参謀本部	一部米図元図, 海軍測量	15
AGS		バラオ諸島	10万	兵要地誌図	1915~38	参謀本部	地理的記述, 海軍測量, 3色	3
AGS		カラライン諸島	2万5千ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	地理的記述, 3色刷	31
AGS		マーシャル諸島	3万5千ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	地理的記述, 一部英図元図, 3色	6
AGS		ギルバートほか	10万ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	米図・英図・海図など, 地理, 3色	32
AGS		ギルバート諸島	6万7千ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	地理的記述, 3色刷	4
AGS		マリアナ諸島	2万1千ほか	兵要地誌図	1943	参謀本部	地理的記述, 3色刷	13
AGS		ロク島	2万5千	兵要地誌図	1944	参謀本部	黒・朱・青3色	1
AGS		サイパン島	2万5千	兵要地誌図	1944	参謀本部	黒・朱・青3色	1
AGS		ブル島ほか	5千	兵要地誌資料図	1944	参謀本部		2

資料: 現地所蔵調査による

## II 調査先と調査方法

本報告では、2002年9月に実施した、アメリカでの外邦図所蔵調査の結果を速報する。今回の調査先は、①LC (ワシントン DC)、②AGS の Map Collection (ウィスコンシン大学ミルウォーキー校 Golda Meir 図書館)、③ハワイ大学ハミルトン図書館 (ホノルル) の3カ所である。このうちハワイ大

学では、アメリカが日本の外邦図を複製した状況を示す、アメリカの地形図の索引図が確認されたものの、外邦図自体は所蔵されていなかったため、おもに LC と AGS の調査結果報告となる。

LC の Madison 館・Geography and Map 部門では、中国・インドの一部のみを暫定的に調査し、索引カード132枚(地図の枚数にして約1万枚分)の筆写と索引図のコピーを行った。また Adams 館では、

表2 朝鮮戦争関係の地形図・空中写真(LC, AGS 所蔵分)

所蔵地域	縮尺	種類	製版・発行年	作製者など	特徴	枚数
AGS 朝鮮 朝鮮南部	5万	地形図	1950	AMS	韓語注記	約40
AGS 朝鮮南部	5万	地形図	1949~51	AMS	韓語・英語併記, 裏面和語	約50
AGS 朝鮮南部	5万	地形図	1949~51	AMS	水色・茶・赤など多色刷	約10
AGS 朝鮮南部	5万	地形図	1949~51	AMS	裏面布張, 表面コーティング	約30
LC 中国 江北界首鎮西方	1万?	空中写真	1943	陸地測量部?	モノクロ	87
LC 江北六甲鎮地区	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	258
LC 江北阜寧南方地区	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	120
LC 江北五河地方・安淮集地区	1万?	空中写真	1943	陸地測量部?	モノクロ	41
LC 五河地区	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	278
LC 江北宝応西南方	1万?	空中写真	1943	陸地測量部?	モノクロ	197
LC 江北興化地区	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	265
LC 中支地域	1万?	空中写真	1942	陸地測量部?	モノクロ	854

資料:現地所蔵調査による

中国全土の産業図など様々な地域のカラー主題図が数十枚と、空中写真2100枚が確認できた。またAGS Collectionでは、実際に目にした約2万~3万枚の所蔵のうち、約400枚に関して実物を一枚ずつ確認して図幅情報を記録し、一部はコピーも入手した。

### III 外邦図のアメリカへの流出経路

LC所蔵の、外邦図・日本国内地図を含めた旧日本軍関係資料は、約10万点にのぼる。主な接收元は、東亜研究所、満鉄、陸軍士官学校(習志野)、参謀本部、内務省警保局などである(図1)。海軍は資料の多くを隠匿したため、ほとんど接收されずに済んだという。また、特に外邦図に関しては、戦後の1947年に、日本の共同印刷で改めて複製されたものも多い。その後、国防省戦争部陸軍地図局(AMS)・ワシントン文書センター(WDC)などを經由し1949年までにLCへ渡ったが、未整理のものが非常に多い。AMSには、数はさほど多くないが、すでに戦時中の1942~43年におもに日本国内の地形図が、何らかのルートで渡っていた。

またAGSへは、おもにAMSと日本の地理調査所から1948~51年に渡り、全体の約8割について地域別の仮分類がなされている。

### IV 兵要地誌図の所蔵状況

今回の調査結果の最も重要な点は、兵要地誌図が大量に確認され、その図式の概要が明らかになったことである(表1)。まず旧ソ連・満州では、約460枚が確認され、うち3色上刷(朱・青・薄緑)が133枚あった。縮尺はおもに10万・2万5千で、多くは1938~42年に作製されている。記載情報の特徴としては、凍土、森林、季節別の車両通行可能性などである。

次に中国本土(支那)では、50~150枚程度が作製されたとみられ、縮尺はおもに50万(省単位)・10万である。2色上刷(朱・青)が中心と推測され、その多くが1938~42年に作製されている。井戸数・宿営可能人数などの野営情報に特徴がある。

最後に南洋諸島では、108枚の現物が確認され、ほとんどが2色上刷(朱・青)であった。縮尺は各島の面積に応じて異なり、多くが1943~44年に作製されている。記載情報の特徴は、地誌一般、海岸上陸、車両通行、離着陸可能性、水源などである。

この結果、①北方・②中国本土・③南方それぞれの、気候・地形・戦況などに応じた、図式・作製時期・記載情報の違いが明らかとなった。その作製総数は、索引図のみによって確認できるものも含め600~750枚程度、場合によっては1000枚前後とも推測される。また、いわゆる「兵要地誌図」以外にも、様々な種類・図式の軍事作戦地図があることが判明した。

表3 日本の地図史上重要な地形図(LC, AGS 所蔵分)

所蔵地域	縮尺	種類	製版・発行年	作製者など	特徴	枚数
AGS 中国 遼東半島	5万	地形図	1895	陸地測量部	墨字記入, 測量者の署名	29
AGS 遼東半島	5万	地形図	1905	陸地測量部	墨字記入, 測量者の署名	17
LC 支那	2万	地形図	1907~	陸地測量部		?
LC 奉天省	2万	地形図	1926	陸地測量部	英語索引図1950年	12
AGS 馬橋子付近	3千	地形図	1943	参謀本部		9
AGS 石道街傅家庄	1千200	地形図	1943	参謀本部	関東州庁測量	21
AGS 台湾	2万	地形図		陸地測量部	図式は日本国内2万と同一	多数
AGS 朝鮮	2万	地形図	1906~07	臨時測量部	図式は日本国内2万と同一	171
AGS	1千200	地形図	1905	陸地測量部	村落地域	約20
AGS 日本 全国	20万	仮製地形図	1912~13	陸地測量部	3色刷	多数
AGS 沖縄・奄美	5万	集成地形図	1944	参謀本部	地形図+海図	多数
AGS 全国	2万5千	仮製地形図		陸地測量部	明治・大正期作製	多数
AGS 全国	2万5千	地形図	1910	陸地測量部	明治末期の製版	多数
AGS 東京・山口	1万	地形図	1900	陸地測量部		約30
AGS 大阪・神戸	1万	仮製地形図	1923	陸地測量部		約30

資料:現地調査による。

## V 朝鮮戦争に使われた外邦図

これと同時に、従来地図史の分野で指摘されていた、朝鮮戦争に実際に用いられたと思われる外邦図も確認された(表2)。AGSでは、①日本軍作製の元図に韓語と英語が印刷され、裏面が麻布下張、表面がコーティングされた地形図、②裏面が日本軍作製の元図、表面が韓語・英語の複製地形図、③英語のみの大判地形図、などが所蔵されており、以上は1949~51年にAMSによって作製されている。また朝鮮の外邦図のほとんどは、1947年にこれも日本の共同印刷で複製されている。

さらにLCでは、①1947年に共同印刷で複製された中国の索引図、②1942~43年に日本軍が撮影したと思われる、中国・北支地域の空中写真が2100枚、③中国の外邦図の裏面にも麻布の下張があるというスタッフの証言、などが確認できた。これらは、朝鮮戦争前後を通じたアメリカの対中国戦略を知る、一つの手がかりとなるかもしれない。

## VI 日本の地図史上重要な地形図

あわせて、日本の地図史上重要な地形図もいくつか確認された(表3)。すなわち、①1895年・1905年作製の中国遼東半島の5万図(余白に墨字で測量者の氏名など測量情報の記載がある)、②1905年以降

作製された中国・台湾・朝鮮の2万図(日本の2万図と同一図式)、③1905年・1943年ほか作製の中国・朝鮮の3千・1千200図、などである。

また、日本国内の地形図に関しても、①1912~13年作製の仮製20万図、②1910年ほか作製の仮製・正式2万5千図、③1900年・1923年ほか作製の仮製・正式1万図(東京・大阪・神戸などの大都市部および旧長州藩の山口)、などが所蔵されていた。

## VII おわりに

以上の調査結果から、今後の課題として、今回入手し得た図幅・索引図のコピーの詳細な検討を行い、情報をさらに整理し、来年度(2003年度)のアメリカ現地調査にまず生かすことが挙げられる。さらに将来的には、当時の日本やアメリカの軍事的展開の中で、これらの外邦図がどのように作製・利用・複製されてきたのかを、明治期から朝鮮戦争あるいはベトナム戦争までのタイムスパンで検討していくことを目指すことになるだろう。

### 3-3 アジア歴史資料センターが公開している 外邦図・兵要地誌関係資料とその利用

小林 茂(大阪大)

演者らは、2002年度より科学研究費(基盤研究[A])をえて、「外邦図の基礎的研究:その集成および地域環境資料としての評価をめざして」をテーマとする共同研究を開始した。ここでいう「外邦図」とは、現在の日本の国土以外の地域について旧日本軍が作製した地図(長岡, 1993)をさし、東北大学など大学や一部図書館のほか海外の諸機関も所蔵する。上記研究は、この所在目録を編集するとともに、作製過程を解明し、過去の景観や環境を記録する資料として、その活用をこころみることも目的としている。

以上の目的のうち外邦図の作製過程の解明は、そもそもそれ自体が軍事秘密とされ、くわえて第2次世界大戦終結時の関係資料の湮滅により、容易ではないと予想されていた。しかし、アジア歴史資料センターが公開する資料により、一部について可能性があると判断するにいたり、その概要を報告した。

村山富市元首相によって1994年に設立が提唱されたアジア歴史資料センターは、2001年11月に独立行政法人として開設された。国立公文書館、外務省外交資料館、防衛庁防衛研究所図書館が所蔵する、明治初期から第2次世界大戦終結時までの各種資料を、画像資料としてインターネットにより提供する業務を開始している。

<http://www.jacar.go.jp/>

にログインすることにより、容易にアプローチできるだけでなく、キーワードにより関係資料を検索できる。「地図」では650件、「測量」では793件、「空中写真」では37件、「兵要地誌」では437件の文書がヒットする。

第2次世界大戦の終了後、日本軍関係の資料の多くは焼却されたと考えられるが、これをまぬがれたものはアメリカ軍に接収された。そのうち図書などをのぞく公文書の多くは1958(昭和33)年に返還され、うち日本軍関係のものはほとんどが防衛庁に移

管され、防衛研究所図書館で閲覧に供されている。そのおもな内容は、陸軍の「大日記」類と海軍の「公文備考」で(井村, 1980; 1981、田中, 1995)、アジア歴史資料センターによりひろく公開されはじめ、そのなかに外邦図に関連する資料がふくまれているわけである。なお、上記返還資料のなかには地図もふくまれていたと可能性もあるが、その存否や内容については、今後の大きな課題である。

以上のような背景をもつ資料の特色については、日本史学や軍事史学方面でもまだみじかい紹介がある(相澤, 1992; 影山, 1993)だけのようで、今後の研究が期待される。現在までみた少数の文書を紹介すると、「南方軍直轄測量機関設置に関する意見送付の件」(1942年、陸軍密垂大日記, 18画像)は、戦時下の地図の作製や複製の状況をなまなましく示す。また「兵要地誌資料提出の件通牒」(1938年、陸満密大日記, 83画像)は、現地部隊から提出された兵要地誌作製のための旧満州北部の調査報告書で、写真や地図も掲載する。

なおこれら以外でもすでに旧日本軍関係の資料が公開されており、マイクロフィルム版「米軍接収日本文書」のなかの、米議会図書館蔵「日本政府諸機関公文書及び検閲資料(1954年以前)」には「満受大日記」(1931-1935年、陸軍省)などがふくまれている。

アジア歴史資料センターの公開資料により、外邦図や兵要地誌(図)の作製過程の一端をあきらかにできる可能性は大きい。外邦図作製の制度的枠組みにもアプローチできると考えられ、多くの地理学研究者の参照が期待される。

#### 文 献

相澤 淳(1992) 防衛庁防衛研究所戦史部, 日本歴史,



533, 95-96.

井村哲郎 (1980; 1981) GHQ による日本の接收資料と  
その後 (1) (2), 図書館雑誌, 74 (8), 375-379, 75  
(8) 466-469.

影山好一郎 (1993) 防衛庁防衛研究所図書館, 軍事史  
学, 113, 97-99.

田中宏己 (1995) [解説] 米議会図書館 (LC) 所蔵の旧  
陸海軍資料について, (田中編『米議会図書館所蔵  
占領接收旧陸海軍資料総目録』東洋書林), ix-x x  
ix.

長岡正利 (1993) 陸地測量部外邦図作成の記録, 地図,  
31 (4), 12-25.

### 3-4 東北大学所蔵の外邦図の利用状況と公開に向けての課題

境田清隆・村山良之（東北大）

・渡辺信孝（仙台都市総合研究機構）

#### I はじめに

東北大学理学部地理学教室が所蔵する外邦図は、1945年9月東北帝国大学理学部地理学講座（当時）の田中館秀三教授が、東京市ヶ谷の参謀本部に出向き閉業処理にあっていた参謀の許可を得て、仙台市片平丁の東北大学理学部に搬入したもので、搬入枚数は9万枚を超える。1995年10月の理学部標本館の開館を機に、教室をあげてこの整理作業にあたり、データベースを作成し、理学部自然史標本館で一般向けに展示するとともに、研究者に公開されてきた（田村，2000）。ここではこれまでの公開実績と今後の公開に関わる課題について報告する。

#### II 公開の現況

##### (1) 一般展示公開

仙台市青葉山の理学部隣接地にある自然史標本館（現在の正式名称は東北大学総合学術博物館）の2階展示室に、15図幅の外邦図がその由來說明と索引地図とともに展示公開されている。自然史標本館には多数の貴重な化石および鉱物標本が展示され、仙台市営バスの観光ルートにもなっていることから、年間入館者数は1万人を超える。入館者に対して実施されたアンケート結果をみると、化石・鉱物標本と地図との違和感を訴える声がある半面、その歴史資料的価値を評価する声も高く、展示方法に対する工夫を期待する声も多かった。

##### (2) 収蔵

外邦図は自然史標本館3階収蔵室の地図キャビネットに1図幅ずつ収納され、複数枚あるものは移動式書架のダンボール箱約500箱に収蔵されている。複数枚あるものについては1997～98年に国土地理

院・岐阜県図書館・京都大学へ委譲あるいは交換を行い、現在の収蔵数は12210種（図幅）、総数は実物68216枚、コピー4147枚である。現在地は学内研究者・学生の閲覧・利用のアクセスの点では優れているが、スペース及び保管条件は必ずしも好適とはいえない。

##### (3) 閲覧・利用

1996年に「利用規定」を作成し、学術研究・教育の目的に限って部外者にも公開している。利用希望者は利用申請書を提出し、「外邦図目録」等を利用して外邦図を閲覧できる。また申請すれば館外への一時貸出および複写も可能である。主としてマンパワーの問題から、学術研究・教育目的以外の一般的な利用者には国会図書館・岐阜県図書館の利用を勧めている（船戸，2000）。1996年以降、利用実績は54件（うち研究目的は40件）であった。

#### III 今後の課題

理学部自然史標本館は1998年4月に東北大学総合学術博物館に改組され、仙台市青葉区川内地区に2005年度の新規開館を予定している。東北大学理学部地理学教室からのアクセスの点では現在の場所が優れているが、保管条件の点では総合学術博物館にすべて移動して改善を図ることが望ましい。また一般入館者の増大が予想されることから、土地利用・土地被覆の変化などのテーマ性をもたせた展示や、外邦図のデジタル化に対応していく計画であるが、一方では歴史を経た現物に直接触れる形態も検討している。

データベース「外邦図目録」は1996年の作成以降もたびたび改訂され（渡辺，1998）、測量・発行の機関および年を記載した増補版が2003年3月に印刷し

刊行される予定である。しかしこの電子媒体を（ホームページなどで）全面公開することには多少の危惧があり、現在検討中である。

外邦図の研究は、製作過程の解明（測量方法・表現方法など）、土地利用の経年変化など、多くの可能性に満ちている。また大縮尺地形図の未整備ないし未公表地域における外邦図の活用は、取り扱いに注意を払いながらも、むしろ積極的に進めるべきであろうと考える。

## 文 献

- 田村俊和（2000）東北大学理学部自然史標本館所蔵の外邦図，地図情報，20（3），7-10.
- 船戸忠幸（2000）岐阜県図書館・世界分布図センター，地図情報，20（1），13-15.
- 渡辺信孝（1998）東北大学で所蔵している外邦図とそのデータベースの作成，季刊地理学，50，154-156.

### 3-5 お茶の水女子大学所蔵分の外邦図に関する現状報告

大浦瑞代（お茶の水女子大・院）

#### I これまでの外邦図の扱い

お茶の水女子大学が所蔵する外邦図について、浅井辰郎先生（1972）や内藤博夫先生（2000）が来歴を記されている。それによると、これらの図は1970年度に購入されたもので、翌1971年には浅井先生のもとで整理作業がおこなわれた。その成果として『東半球詳細地図索引』や索引図等が作成されている。図を綴じ込んだ冊子は日本を含めて全191冊にのぼり、枚数は15,000を越えている。しかしその後、補入などにより枚数が変化しており正確な数が判然としないのが現状である。

#### II 今年度の調査概要

正確な所蔵枚数を明らかにするため、綴じ込まれている図を1枚1枚めくりながら数えた。それと同時に、東北大学に所蔵されている図との重複程度も調べた。2002年9月14～16日と11月23～24日の計5日間、東北大学で目録作業をおこなっている渡辺信孝氏に来訪いただき、大浦と2人で作業をおこなった。

これまでに、東亜、旧領土、満州、北支那、フィリピン島の冊子の作業を終え、南支那、インドシナ半島、ボルネオ・セレベス、ハワイ・アラスカの冊

表1 枚数比較

綴込冊子番号	国・地域	主な縮尺 (万)	1971年次 の枚数 *1	1972年次 の枚数 *2	2002年次 の枚数 *3
1～37	現日本	20～0.3	3,278	3,278	
38～43	東亜	100～50	428	454	455
44～55	旧領土	5～2	992	1,021	1,034
56～67	満州	20～2.5	1,265	1,229	1,307
68～74	北支那	10～5	665	677	686
75～104	南支那	10～5	2,869	2,924	
105～117	インドシナ半島	25～5	1,135	1,218	
118～127	インド・マレー	12.5～5	1,018	968	
128～130	フィリピン島	20～5	168	167	172
131～134	スマトラ	25～5	442	449	
135～139	ジャワ	5	441	441	
140～143	ボルネオ・セレベス	20～5	304	305	
144～148	パプア	50～5	297	292	
149～151	太洋州諸島	20～2.5	169	178	
152～155	オーストラリア・ニュージーランド	25～5	315	323	
156～160	ハワイ・アラスカ	300～5	256	257	
161～166	航空図・市街図・陸海編合図	300～5	190	198	
海図1～23	日本製海図		1,227	1,242	
海図24～25	外国製海図		163	166	
合計枚数			15,622 *4	15,787 *5	

浅井(1972)の表をもとに「1971年次の枚数」と「2002年次の枚数」の項目を追加して作成。

\*1 『東半球詳細地図索引』による数値。

\*2 浅井(1972)による数値。

\*3 渡辺・大浦の調査による数値。

\*4 『東半球詳細地図索引』は15,593枚としているが、これでは合計が合わないため修正した。

\*5 浅井(1972)は15,857枚としているが、これでは合計が合わないため修正した。

網掛けの欄は、今後調査をおこなう。

表2 人文地理学会における展示外邦図の詳細

図幅名	京城	上海	高雄	MARKHAM NEW GUINEA	航空気象図 地上風(11月)
索引情報	京城三号	二万五千分一図上海近傍二十一号	高雄要塞近傍七号(共十面)五万分一地形図高雄九号(共十面)	東部ニューギニア(「フォン」半島及「マダン」地区)兵要地誌資料図五号、二十五万分一図東部パプア島二十三号	
縮尺(万)	5	2.5	5	25	
範囲(東~西/北~南)	E127° 00' 10" 4~ E126° 45' 10" 4/ N37° 40' ~N37° 30'		E120° 30' ~ E120° 15' /N22° 40' ~N22° 30'	E147° 00' ~E145° 30' /S6° 00' ~ S7° 00'	W150° ~E70° / N60° ~S25°
色数	2(黒・水)	1(黒)	1(黒)	4(灰・水・緑・朱)	4(茶・黄・青・赤)
タテ×ヨコ(cm)	46×58	44×56	46.5×58	61×79	53.5×76
測図(年)	1918、1937(第2回修正測図)	1914	1928		
製版(年)		1932		1942	
調製(年)				1943	
印刷(年)	1941				1944
発行(年)	1941	1932	1930	1942	
備考	著作権は朝鮮総督府が所有。印刷・発行は日本の陸地測量部。「(定価金拾八銭)」の印刷あり。	中華民国3年(1914)江蘇陸軍測量局測図の図を基にしている。「秘」の印刷あり。	仮製版。「軍事秘密(戦地=限り極秘)」の印刷あり。	1942年オーストラリア作成6色刷り4マイル1インチ図を基にしている。黒色の「秘」を朱色の二重線で消し「極秘」とする。全面にグリッドあり。	ひと月分が11枚組で構成され、それぞれの表面に図情報を、裏面に解説を記す。青色で「秘一部軍資秘」の印刷あり。

注) 空欄は記載なし。

子についても、部分的に作業をおこなっている。その結果、『東半球詳細地図索引』や浅井先生(1972)に記されている枚数よりも多く存在することがわかった(表1参照)。そして、作業を終えた62冊に綴じ込まれている5869枚のうち、1266枚は東北大学で所蔵していない図であることも明らかになった。

また、11月16~17日にお茶の水女子大学で開催された2002年度人文地理学会大会では、外邦図の展示をおこなった(表2参照)。展示する図の選定過程において、気象図も所蔵していることがわかった。この気象図は『東半球詳細地図索引』に記されておらず、今回初めてその存在を認識したものである。

### III 今後の作業

所蔵枚数の確認と、東北大学との重複程度調査を引き続きおこなう予定である。最終的には東北大学で作成された目録を元に、お茶の水女子大学だけで

所蔵する図の情報を加えて目録を作成するつもりである。

また、現在の外邦図保存状況は望ましいものではない。今年度の予算で保存ケースを購入したので、良好な保存環境を整えていきたい。

### 文献

- 『東半球詳細地図索引』(1971) お茶の水女子大学地理学教室。
- 浅井辰郎(1972) 東半球大縮尺図のことども、お茶の水地理, 13, 48-49.
- 内藤博夫(2000) お茶の水女子大学所蔵の地図, 地図情報, 20(3), 15-17.